

広報 Koko Gallery
展示室

第35回

— 企画展 —

江戸の風物 おばけ・妖怪展—今とは違う江戸のおばけ—

花火にお祭り、夏は楽しいイベントがたくさんあります。でも、夏の風物詩はそれだけではありません。この時期に良く現れるおばけや妖怪や幽霊も夏の風物詩です。

江戸時代にも、おばけや妖怪の存在は広く信じられていました。当時は夜間に外灯もなく月明かりと足下をぼんやりと照らす提灯だけが頼りでした。闇のそこかしこに潜んでいるおばけや妖怪の存在を信じずにはいられない時代だったのです。

図は「番長皿屋敷」を題材に葛飾北斎が描いた「百物語 さらやしき」。お皿を数えるお菊さんの幽霊の話を一度は聞いたことのある人も多いのではないのでしょうか。

さる藩主の下屋敷に奉公していた美しい娘お菊は、ある日家宝の皿を一枚ふとした過ちで割ってしまいます。以前からお菊に横恋慕していた殿は、恋の恨みを晴らさんとばかりにお菊を手打ちにし、死骸を古井戸に投げ込んでしまいました。それからというものこの古井戸からは、夜な夜なお菊の亡霊が現れ、皿を数える女のかすかな声が聞こえるようになったといひます。

この作品は有名な皿屋敷お菊伝を北斎独自の感覚で描いたのでしょう。漆黒の闇の中に浮かび上がるお菊の亡霊。その髪に絡んだ皿は、まるで首か蛇のように井戸から伸びています。青白い顔の女の口からは人魂のようなものが吹き出され、その表情は怖さというよりもおかしみすら感じられ



葛飾北斎「百物語 さらやしき」川崎・砂子の里資料館蔵

ます。

本展では歌川国芳や葛飾北斎をはじめとする浮世絵師たちがユーモアと奇抜なアイデアでおばけや妖怪を描いた作品を紹介しします。暑い夏、おばけを見て涼しくなりたい方は、ぜひ美術館に遊びに来て下さい。

那珂川町馬頭広重美術館 学芸員 河野結美

【会期】

8月8日(金)～9月15日(月祝)

【ミュージアムトーク(展示解説)】

8月16日(土) 午後1時30分～当館学芸員

【ワークショップ】

8月31日(日) 午後1時30分～

「けしごむハンコの会」講師：高田良子先生
※毎週第3日曜日は「家庭の日」です。お子様(中学生以下)連れのご家族は観覧料が無料になります。

7月15日から21日まで
馬頭広重美術館視聴覚研修
室で開催された二人展。

米版画家ジーン・シャノンさんと黒羽町須佐木在住の佐藤元春さんの作品を1点ずつ紹介します。



SUMIYOSHI ジーン・シャノンさん

ミニ
ギャラリー



楽々メトロノムの帯 佐藤元春さん